

新型コロナウイルス蔓延で
現場は苦しい状況ですが、
精いっぱい活動しています！

ゾウ保護基金

…P4

◦ 監視員たちに…

サーチライト、ブーツ、簡易夜具などのパトロール装備を送り、ゾウなど野生動物の保護、調査、パトロール技術などに関するトレーニング・ワークショップも開催しました。

◦ 象牙の違法輸出 に関する

覆面調査レポートを公表しました。

ぺっ甲取引についての報告書 /
お知らせ …P8

トラ保護基金

…P2

◦ 新しい保護区へ…

自動撮影カメラ、GPS、浄水器、蚊帳などの基本的なフィールド装備を支援、トレーニング・ワークショップも開催しました。

◦ 『ジャングル・ブック』 の舞台

パンチ・トラ保護区内にいくつもあるパトロール・キャンプへ、浄水器と携帯用ソーラーランタンを配布しました。

©WTI

©WTI

イリオモテ ヤマネコ 保護基金

…P6

◦ 交通事故防止 のための…

夜間パトロール、島内の小中学校でのヤマネコのいる暮らし授業を継続して実施しています。

◦ 竹富島と協力し…

道路下に設置されている33か所のヤマネコ移動用アンダーパス(小トンネル)で、漂着ゴミの清掃、雑木の伐採などを行い、ヤマネコが使いやすくなりました。

©田中光常



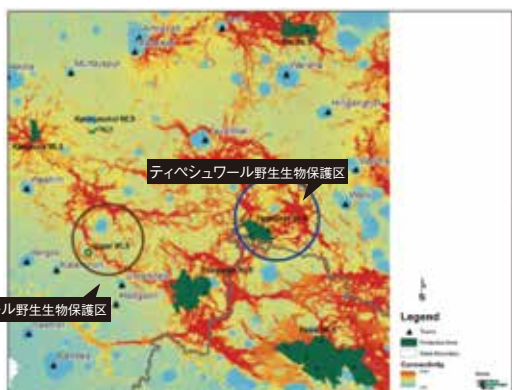
パンデミックのなかで

2020年から2021年は新型コロナウイルスの蔓延で、JTEF-WTI（インド野生生物トラスト）のフィールド活動は数回にわたり停止せざるを得ない状況でした。2020年3月以降は数回にわたり外出禁止令が出されました。2020年の9月には感染者数600万人を超え、この頃をピークに感染者数は減少し始めたのですが、2021年3月には新型コロナの「変異株」がインドで確認され、インド国内は再びロックダウン。パンデミックが始まってから州森林局は、保護区内での野生動物の保護活動を、限られた森林局スタッフによる自動撮影カメラでのトラのモニタリングだけに限定しました。この制限と健康へのリスクを考え、WTIチームは地域住民と協力してのトラとのトラブル防止活動をほとんど進めることができませんでした。コロナによる失業者の増加は、森の近くに暮らす村人たちの森への依存をいっそう高め、伐採した木を薪として売ったり、動植物の違法採取で現金収入を得るなど、野生動物の脅威も倍増しました。

5月初旬には連日40万人超の新規感染者が確認され、6月10日現在では感染者は減ってきているものの、ティベシュワール野生生物保護区での主要な活動の1つだった、トラとのトラブル防止対応チームを組織するため若者を募集する計画は、大学が閉鎖されている現状では再開が難しくなっています。

逆境の中、実行した活動

イサプール Isapur 野生生物保護区の第一線で活躍する森林局スタッフのためのトレーニング・ワークショップ開催



イサプール野生生物保護区は、トラの楽園と言われている中央インドに新しく設立された保護区の1つです。中央インドには数多くの保護区が存在し、その保護区間でトラの行き来が確認されています。ティベシュワール野生生物保護区とイサプール野生生物保護区との間は少し離れてはいますが、パッチ状に残る森とつながってい

て、コリドーとしてかろうじて機能しています。20年間もこの地域でトラの目撃はなかったのですが、WTIチームは一昨年、ティベシュワール野生生物保護区から3頭の若いトラがイサプールの方へ分散していくのを確認しています。この辺りでは、家畜被害も報告されていて、さまよっているトラと村人とのトラブルを解決し、このわずかに残るコリドーを守る必要があります。



そこで森林局のスタッフを増員し、昨年10月にJTEFの支援で自動撮影カメラ9個、GPS、浄水器、蚊帳などパトロールの基本的なフィールド装備を配布しました。しかしすぐにロックダウンになりワークショップは延期。改めて2021年1月に2日間のワークショップを再開しました。



初日には野生動物のより良い管理のため生態学重視のパトロール方法について学び、動物の足跡などのサインの見分け方、多様な植物、昆虫、鳥の識別を勉強し、パトロールのルートを理解したあと、フィールド実習を行いました。その後、WTIのシニアアドバイザーのブラフラー・バンブルカー氏による「トラにとって脅威となるもの」や「生物多様性を守るための保護区の役割」などについて講義、人間とトラとのトラブル緩和に関するWTI制作のアニメーションドキュメンタリー映画「キナラ」を上映し終了しました。
(<https://www.youtube.com/watch?v=vfzD8z91w7g>)



(アニメKINARAはこちらから)

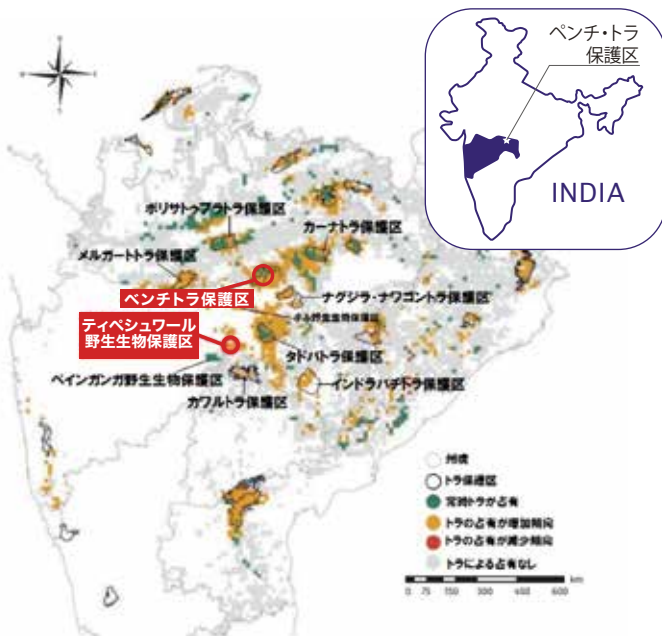
この映画の終わりでは、トラに出会った時の対処法や注意点なども知らせています。

2日目の午前中には、「野生動物にとっての感電の脅威とその予防方法」、「イサプール保護区の野鳥の多様性について」の講義のあと、バンブルカー氏が参加スタッフへ感謝とともに期待を込めて賞を授与し2日間のワークショップを終了しました。最優秀参加賞が与えられた2名のうち1人である若い男性の森林警備員へは、「1972年野生生物保護法」が1部贈られました。2人目の若い女性森林局員にはインドの哺乳類ガイドのヒンディー語版が送られました。



このワークショップに参加した森林局の最前線スタッフは、「このようなトレーニングをずっと求めていた」「現場の知識を高めるために保護のやり方の理解と知識が重要で、今後の仕事に役立つ」と喜んでいました。このようなトレーニングはフィールドで活動するスタッフに不可欠なので、今後もできる限り多くのトラが生息する中央インドの保護区で継続していきます。

ペンチ・トラ保護区の 第一線で働くスタッフへの支援



JTEFがWTIと活動を続けている中央インド、マハラシュトラ州には、お伝えしている通り多くの保護区があります。その中で海外からの観光客も多く訪れるペンチ・トラ保護区周辺では多くのトラが他の保護区へ移動していますが、このペンチ・トラ保護区と隣接するマディヤプラデシュ州のカーナ・トラ保護区との間を国道7号線が通っ

ています。2008年ごろからこの国道7号線の拡幅工事計画が持ち上がり、JTEFは2009年にこの国道7号線を視察してきました。片側1車線だった道路を中央分離帯付の2車線に拡幅されてしまうと、トラを始め野生動物の移動が妨げられてしまいます。そこで、この国道の部分は拡幅ではなくアンダーパスを作るようWTIが求めアンダーパスが設置されました。私たちはその後も中央インド全体のトラの保護を考えてきました。どのトラ保護区も生息地の喪失、分断化、密猟、家畜を殺された地元の人々のトラへの報復など多くの脅威に直面しています。

2020年12月、JTEF-WTIはベンチ・トラ保護区からの要請を受け、フィールド装備（118個の浄水器と携帯用ソーラーランタン）の配布を行いました。これらは電気や飲料水設備のないパトロールキャンプでの必需品です。保護区内の50のパトロールキャンプのスタッフがワークショップに参加し、これらのキットを受け取りました。



チャレンジ

コロナ禍で、インドのトラを守るために今、実際にできること、今は少し難しいことなどが分かりました。JTEFはWTIとも相談しながら、トラの聖地、中央インドを守るために現状を踏まえ、できることをチャンスを見逃さず確実にやっていくことの大切さを改めて確認しました。





南インド・ケララ・ゾウ保護プロジェクト

「ゾウの生息地のつながりを維持し、ゾウが自由に移動しながら安定して暮らせるようにする。」

それがJTEFFとWTI（インド野生生物トラスト）が、ケララ州で進めようとしているプロジェクトです。これまで新型コロナウイルスのためにプロジェクトが開始できませんでした。2020年8月にWTIとケララ州森林局との協議が始まり、10月には2度目の協議が行われました。その結果、WTIとJTEFFがターゲットとする2つの個体群の移動ポイントのうち、まず**6,500頭のゾウからなる第1個体群が移動するために必要な、ワヤナッドと呼ばれるエリアの廊下確保に乗り出すことをケララ州が了解しました。**

このエリアで未だ手が付けられていない廊下は3つですが、まず、一番東側（図では右側）の「第1廊下」内に自動撮影カメラを取り付け、ゾウの移動状況のモニタリングを始めました。1月時点では残念ながらゾウは撮影されませんでした。この第1廊下保護の課題は、そこにコーヒー農園ができていて、ゾウの移動を妨げている点です。WTI/JTEFFはこの廊下の重要性について調査し、ケララ州にこの土地を買い取ってもらうことを目指しています。

真ん中の「第2廊下」の課題は、廊下のど真ん中に村ができてしまっていることです。ゾウなどとのトラブルが起きていて、村人自身の暮らし向きはよくありません。そこで、かつてアッサム州でも行ったように、話し合いで村を廊下外に移転してもらうことを検討しています。ここでもモニタリングを開始しましたが、4月にトラが撮影されました。ゾウではありませんが、この廊下が動物たちにとってどれほど重要かは改めて明らかになりました。モニタリングは今後も継続していきます。

2020年の終わりから2021年にかけて、ワヤナッドエリアでの活動が始まっています！



ワヤナッドエリアで活動する森林局の「監視員」と呼ばれる臨時スタッフは、現場を実際にパトロールし、密猟、盗伐、森林火災などに目を光らせる重要な存在です。ところが、そのための装備やトレーニングがいきわたっていないのは現実。そこで、監視員たちにパトロール装備を送り、ゾウなど野生動物の保護、調査、パトロール技術などに関するトレーニング・ワークショップも開催しました（2021年2月6日；56名参加）。



国内象牙市場閉鎖プロジェクト

アメリカのNGO「ワイルドエイド」とトラ・ゾウ保護基金 (JTEF) は、「TOKYO象牙 海外注文承ります：止まらぬ象牙の違法輸出、その裏側に潜む実態に関する調査」という報告書を発表しました (2021年3月)。



業者の工場で裁断される象牙

これは、2018年及び2019年に東京などで実施された、2つの中国人経営の会社に対する覆面調査の結果を記録したものです。最初の会社は、この店舗で象牙を買い付けた顧客が、中国の税関で象牙を発見され、「10何人くらい刑務所に入っている」と語っていました。もう1つの業者は、自社工場に蓄える数万本の象牙カット・ピースから中国人向け定番商品を製造し、さらには中国本土にいる顧客からの個別オーダーに応じて象牙製品を製造販売していました。

東京は、象牙が違法に海外へ移動するための最大の玄関口であり、全国の18%に達する象牙取引のための店舗等があり、日本国内および海外訪日客による象牙消費の中心地になっています。今回の調査は、東京が象牙の違法輸出の拠点でもあることを明らかにしました。この報告書は、「象牙取引規制に関する有識者会議」で違法な象牙取引及び輸出を防止するための対策を検討中の東京都にも提出しました (レポートは、JTEFウェブサイトからご覧いただけます)。



(レポートはこちらから)



ケララ州では、新型コロナ蔓延の第2波で5月初めには1日で4万人もの感染者を出し、6月7日現在でロックダウンが延長されている厳しい状況です。しかし、ここでご報告したように、最大限の活動を試みていますので、今後ともご支援お願いいたします!



森林局監視員へのフィールド装備提供

IUCN（国際自然保護連合）からの世界自然遺産登録勧告

2021年6月、2019年に世界自然遺産リストへの記載登録申請をした「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」について、諮問機関であるIUCNがその報告書を公表しました。環境省が先月発表していたとおり、「記載登録が適当」の勧告がなされています。これにより西表島（の低地部を除く森林のほとんど）が、7月に開催



が予定されている世界自然遺産委員会で正式に世界遺産として登録される見通しとなりました。

しかし、2018年の「登録延期」勧告時に指摘された観光による過剰利用対策については、枠組みはできたものの未だ実施されていない状況です。IUCN勧告は、特に西表島について、観光客収容力およびその影響の批判的評価がなされ、それが改訂された観光客管理計画に組み込まれるまでは、観光客の訪問の水準を現在の水準にとどめるか、または減少させることを求めています。また、イリオモテヤマネコやアマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ等のロードキルを減少させるための交通管理対策について緊急に実効性を検証し、必要とあらばこれを強化することも勧告されています。これらの宿題の進捗および結果は、2022年12月1日までに世界遺産委員会に報告するよう求められています。JTEF/やまねこパトロールは、このIUCN勧告に応じて実効性のある対策をとれるよう、提言・協力を行ってまいります。

イリオモテヤマネコの交通事故

2020年の交通事故は0件となり1999年以来21年ぶりの無事故となりましたが、2021年4月21日、466日ぶりに交通事故が発生してしまいました。事故の発生地点は、上原小学校の生徒たちが手作りの注意喚起看板を設置した浦内橋～干立間の直線でした。この区間は過去5年間で4件の交通事故が発生している事故多発区間です。支部やまねこパトロールでも繰り返し交通事故対策の強化を訴えてきた場所でもあります。死亡したのはオスの成獣で、上原小学校の授業で仕掛けた自動撮影カメラでもたびたび撮影されていた個体でした。

事故発生後も現場付近でヤマネコの目撃が相次いでおり、昨日の夜間パトロール（2021年6月9日）でも、路上に出てきていたため追い返しを行いました。再度事故が起きないように、支部やまねこパトロールはこの区間でのパトロールを強化し、路上でのヤマネコ目撃情報や交通データを関係機関に提供



環境省西表野生生物保護センター提供

するほか、現在沖縄県で検討されている交通事故対策の強化にも協力していく予定です。

冊子が
できました!

イリオモテヤマネコとロードキル

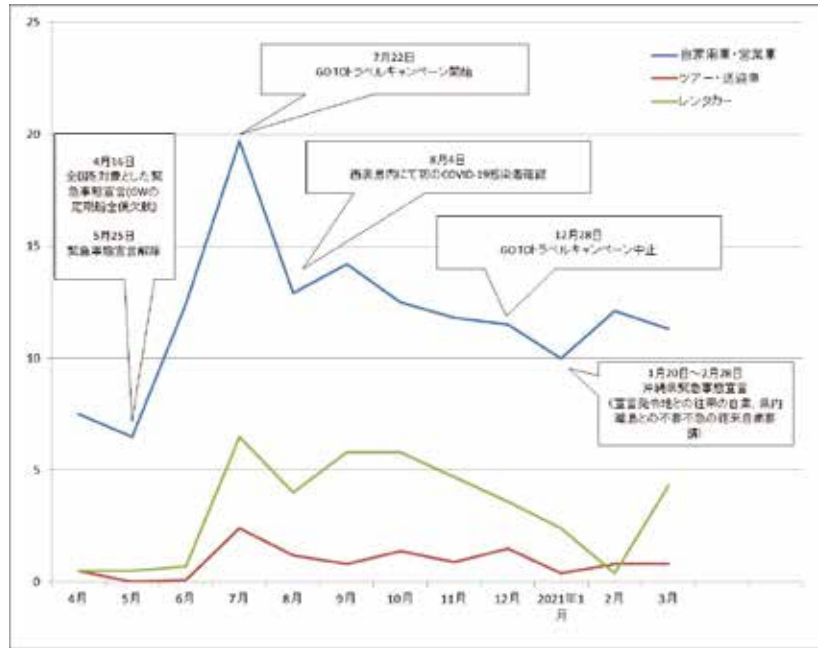
JTEFは2011年より西表島の小中学生を対象とした「ヤマネコのいるくらし授業」や、竹富町教育委員会と共催する「イリオモテヤマネコ教員研修会」など、環境教育活動に取り組んできましたが、特に島に新しく赴任した教員がヤマネコ学習に取り組むためには、ヤマネコに関する基本的な情報を広くカバーしつつアップデートしたものがないなどの問題がありました。特に交通事故がここまで深刻化していること、人なれなどかつてはなかった問題も出てきています。

そこで、支部やまねこパトロールでイリオモテヤマネコの生態のほか、交通事故の深刻さが度合を増していることや、その原因となるヤマネコの人なれ・道路なれという新しい問題、保護の取り組みなどについてまとめた冊子「イリオモテヤマネコとロードキル」を作成し、西表島の全小中学校と全ての小中学生に配布しました。上原小学校では実際に冊子を使って授業を実施したほか、地元の会社の社員研修でもこの冊子を配布し、ヤマネコとロードキルを防ぐ上で観光客にどのような注意喚起を行ったらいいのか、意見交換を行いました。



2020年度夜間パトロール

2020年度の夜間パトロールは計139回行い、2847台の通行車両と遭遇しました。交通量は緊急事態宣言が発出された4月～5月にかけて大きく減少しましたが、7月のGoToトラベルキャンペーンの影響で急増しており、特に来島者が減少し、島内の交通量が減少する傾向にある9～12月にかけては2019年度を超えるほどの交通量がありました。現在、西表島への来島者は個人旅行を中心に昨年度の緊急事態宣言時より明らかに多くなっており、7月に予定されている世界自然遺産リスト記載を機に交通量が急増する可能性があります。



ヤマネコのいる暮らし授業

毎年恒例の上原小学校ヤマネコ学習。2020年12月～2021年2月も出前授業を行いました。西表島内に新型コロナウイルス感染者が出たことから授業開催も一時危ぶまれましたが、西表野生生物保護センター訪問、フン分析、自動撮影カメラの設置など例年通りのプログラムを実施することができました。授業終了後、生徒たちは注意喚起看板を手作りし、2021年3月、交通事故多発区間である浦内橋～干立間の直線に設置しました。



自動撮影カメラに映ったヤマネコを授業で確認



事故多発区間に手作りの看板を設置

寄付のお願い

近年交通事故増加の原因として懸念が高まっているヤマネコの人なれ・道路なれの実態調査を近く実施します。目撃者のヒアリングや現場検証を行い、ヤマネコへの接近を規制する条例など新たな交通事故対策を検討し、関係機関にその実施を求めています。

是非、皆様のご支援をお願いいたします！

イリオモテヤマネコの日

毎年4月15日、竹富町条例で定めるイリオモテヤマネコの日ですが、2021年も昨年度と同様、新型コロナウイルスの影響でシンポジウム等のイベント開催ができませんでした。そこで環境省西表野生生物保護センターで行われた特別展示では、夜間パトロールで集めたデータなどやまねこパトロールの活動を紹介するコーナーが設けられ、ヤマネコ通信や年次報告書などでおなじみ、西表島在住の写真家、村田行さん撮影のイリオモテヤマネコ写真パネルが展示されました。



イリオモテヤマネコのパネルと村田行さん

アンダーパス清掃作業

西表島を走る県道の下には、イリオモテヤマネコの交通事故を防ぐため、ヤマネコ用通路（アンダーパス）が123基設置されています。しかしこれまでは十分管理が行われておらず、木や草が生い茂ったりしてヤマネコが利用しにくいアンダーパスもありました。

そこで、竹富町はやまねこマラソンの参加費などを積み立てたイリオモテヤマネコ保護基金を活用した「令和2年度イリオモテヤマネコアンダーパス清掃業務」を計画。支部やまねこパトロールはこれを受託し、問題があると確認されていた33か所の清掃作業を行いました。



べっ甲の違法取引への日本のかわり

極度に絶滅に瀕したタイマイに対する脅威..

2021年5月、トラ・ゾウ保護基金は、WWF ジャパン、TRAFFICとともに、“SHELL SHOCKED: JAPAN’S ROLE IN THE ILLEGAL TORTOISESHELL TRADE” (英文)を共同で発表しました。国際自然保護連合(IUCN)のレッド・リストで「極度に絶滅のおそれの高い」種(CR)に選定され、ワシントン条約でも附属書Iに掲載されて国際商業取引が禁止されているウミガメ類の1種であるタイマイ。その甲羅=べっ甲を、日本へ密輸入する試みが近年増加しています。日本は、第二次世界大戦後に世界最大のべっ甲輸入国となり、毎年数万匹相当の量を輸入していましたが、ワシントン条約加盟後もタイマイの禁止については「留保」して輸入を継続、1994年にようやく留保を撤回し、輸入禁止に応じました。以降、日本のべっ甲業界は過去に輸入した在庫に依存してビジネスを続けることになりました。ところが、その在庫がいつまでもなくなりません。その一方、べっ甲業者の関与する密輸は継続。2015年以降は特に密輸が増加しています。こうしたことから、べっ甲業者らの在庫が純粋に過去に輸入されたものであるかどうかは大いに疑問です。また、今回、2019年の1年間にヤフオク!で取引されたベッコウ製品の落札件数を調査したところ、総数は最低8,202件(新品および中古品を含む)、取引の合計金額は最低でも1億円以上にのぼりました。内訳はその72%が装飾品で、11%がべっ甲を使ったメガネのフレーム。金額ではメガネのフレームが50%近くを占めました。



このような状況に基づき、本報告書では、日本政府に対し、べっ甲の密輸入に対する法執行の強化、現行の在庫および国内取引に対する規制の厳格化、さらに、オンラインでの取引にかかわるEコマース企業に対しても、自社プラットフォーム上でのウミガメ製品の取引を自主的に禁止する措置をとるよう求めています。

(レポートは、JTEFウェブサイトからご覧いただけます。現在は日本語版も公開中)

JTEFの賛同者

- 相澤登喜恵さん(動物肖像画家)
- 新井晴みさん(俳優)
- 安藤元一さん(ヤマザキ学園大学名誉教授)
訃報 2020年3月24日にご逝去されました。ご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈りいたします。
- 池田卓さん(シンガーソングライター)
- 井上奈奈さん(現代アーティスト)
- 岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)
- 牛越峰統さん(一般社団法人日本プロサーフィン連盟名誉顧問)
- 大森享さん(元北海道教育大学教授)
- 岡田彰布さん(野球評論家)
- 小川潔さん(東京学芸大学名誉教授)
- 加藤登紀子さん(シンガーソングライター)
- 蟹江杏さん(版画家)
- 見城美枝子さん(青森大学副学長・エッセイスト)
- 巨勢典子さん(作曲家・ピアニスト)
- 小林裕児さん(画家)
- 権藤真禎さん(元社団法人兵庫県自然保護協会理事長、元神戸市立王子動物園園長)
- 坂本美雨さん(ミュージシャン)
- 沢田研二さん(歌手)
- 瀬木貴将さん(ミュージシャン、JTEF野生動物親善大使)
- 田中豊美さん(動物画家)
- 田中裕子さん(俳優)
- 田畑直樹さん(公益財団法人日本動物愛護協会理事長)
- 土居利光さん(前恩賜上野動物園園長、日本パンダ保護協会会長)
- 並木美砂子さん(帝京科学大学教授)
- 根本美緒さん(フリーキャスター・天気予報士)
- 南ぬ風人まーちゃんうーぼーさん(三線アーティスト)
- ヒサクニヒコさん(漫画家)
- 平岩弓枝さん(作家)
- 福井崇人さん(2025PROJECT 理事)
- 福田豊さん(恩賜上野動物園園長)
- 藤木勇人(志いさー)さん(断家)
- 古沢広祐さん(國學院大學研究開発推進機構客員教授)
- 前川貴行さん(動物写真家)
- 松田陽子さん(シンガーソングライター)
- 水野雅弘さん(株式会社TREE 代表・プロデューサー)
- 三石初雄さん(東京学芸大学名誉教授)
- 宮下実さん(ときわ動物園園長、元近畿大学教授・大阪市天王寺動物園名誉園長)
- 村田浩一さん(日本大学生物資源科学部特任教授)
- 森川純さん(酪農学園大学名誉教授)
- 八千草薫さん(俳優)

訃報 2019年10月24日にご逝去されました。JTEF設立以前のトラ保護基金時代から2018年秋まで20年にわたり、ずっとご寄附やグッズをお買い上げいただき、あの可憐な話し方で野生動物のいる自然環境の大切さをお話しくださっていました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。
山極寿一さん(総合地球環境学研究所所長、前京都大学総長/進化論・生態学・環境生物学・動物学)
山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長)
吉野信さん(動物自然写真家)
渡辺貞夫さん(ミュージシャン)

五十音順

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

年間サポーター費・随時寄附のお支払方法

JTEFのウェブサイトから、クレジットカードで簡単にご寄附いただけます。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
ゆうちょ銀行
口座番号: 00170-7-355897
加入者名: トラ・ゾウ保護基金



認定NPO法人
トラ・ゾウ保護基金
http://www.jtef.jp/

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel: 03-3595-8088 Fax: 03-3595-8090
E-mail: hogokikin@jtef.jp URL: www.jtef.jp
郵便振替口座: ゆうちょ銀行 口座番号)00170-7-355897
加入者名) トラ・ゾウ保護基金

トラ保護基金通信 vol.37
ゾウ保護基金通信 vol.34
イリオモテヤマネコ保護基金通信 vol.23
発行人・編集: 戸川久美
発行日: 2021年6月30日